

令和6年度第1回櫃原市こども・子育て会議 会議録

日 時：令和6年5月23日（木） 16時00分から18時00分

場 所：櫃原市文化ホール（万葉ホール）研修室2

出席委員：天根委員、伊瀬委員、木村委員、桐山委員、高瀬委員、田中委員、野呂委員、榎谷委員、松井委員、
三浦委員、柳本委員、山本委員、原田委員、米澤委員、中川委員、森岡委員

欠席委員：北尾委員、高西委員、吉川委員、椎名委員

事務局：西岡課長補佐、西迫統括、竹内統括

配布資料：【資料1-1】庁内検討委員会名簿

【資料1-2】櫃原市第1期こども計画策定にかかるワーキンググループ委員名簿

【資料2-1】こども計画策定への推移

【資料2-2】こども基本法の概要

【資料3-1】櫃原市第1期こども計画策定の全体スケジュール

【資料3-2】令和6年度こども計画策定にかかるスケジュール概略

【資料4】 櫃原市こども計画策定にかかるアンケート調査 実施概要

【資料5-1】櫃原市子どもの生活実態調査票（児童生徒票）

【資料5-2】櫃原市子どもの生活実態調査票（保護者票）

【資料5-3】櫃原市子ども・若者の生活や意識に関するアンケート調査（中・高校生相当年齢対象）

【資料5-4】櫃原市子ども・若者の生活や意識に関するアンケート調査（18～39歳対象）

【当日資料】 令和6年度第1回こども・子育て会議開催にあたりアンケート内容について各委員よりいただいた事前のご意見

次 第：1. 開会

2. 副市長あいさつ

3. 委員及び委託業者の紹介

4. 議事

（1）計画の趣旨説明について

（2）櫃原市第1期こども計画策定にかかるスケジュール

（3）ニーズ調査票案について

5. 「子育てするなら櫃原市！子育てガイドブック」について

6. 次回の会議の日程について

7. 閉会

1. 開会

・事務局

ただいまより令和6年度第1回こども・子育て会議を開催する。お忙しい中、ご出席賜り感謝する。開会にあたり、副市長よりご挨拶申し上げる。

2. 副市長あいさつ

・副市長

来年の4月からスタートいたします子ども・子育て支援事業計画の策定に向けた議論を昨年中はしていただいたと思いますけれども、昨年12月、政府でこども大綱が閣議決議をされたことを受け、檀原市としても子ども・子育て支援事業計画だけではなく、子どもの貧困対策推進計画、子ども・若者計画を包含するこども計画を令和6年度に策定するという方向で整理をした。それに伴い、今回新たに5名の方を新しく委員としてお迎えし、中には市民公募で選んだこども・若者委員の二人にも今回からご参加をいただいている。昨年度から継続審議いただいている皆様含め、引き続きよろしくお願ひ申し上げる。

本日の議論だが、新たな領域となる子どもの貧困対策推進計画、あるいは子ども・若者計画の領域に関する新たなアンケート調査の内容について慎重なる審査をお願ひしたい

3. 委員及び委託業者の紹介

・事務局

(出席状況の報告)

(委員の紹介)

(資料の確認)

(傍聴希望者2名を報告)

それでは、これより天根会長に議事進行をお願ひする。

4. 議事

・天根会長

事務局説明をお願ひする。

・事務局

議事(1)(2)を資料2-1、2-2、3-1、3-2に基づき説明。

・天根会長

これについて質問はないか。

・事務局

議事(3)を資料4、5-1、5-2、当日資料に基づき説明。

・天根会長

事務局からの説明に対して意見や質問はないか。

前年度もアンケート調査を実施したが、法改正を受け新たな調査を実施するため、議論いただきたい。

・中川委員

【当日資料】の4番のところ、ジェンダー観点の話だが、小学校5年生は体の発達に伴い第二次性徴を迎え、貧困層の方たちは生理用品を買うのも難しいという話を耳にしたことがある。女性限定になるが、家族に生理用品

を買ってもらえているかというような質問を加えてはどうか？

・事務局

設問に追加する。しかし、結果として数が集まるかどうかは不明なため、分析ができるかどうかまではわからない。

・米澤委員

【資料 5-1】の Q16。ヤングケアラーについて聞いている部分。昔から家族を世話している人は存在し続けており、それに対し本人が困り感を持っているかどうかという違いのため、設問を分けるべき。Q16は「世話をしていること」と「やりたいことの制限」が一緒の設問になっているため、まず家族の世話をしているかどうかの質問をした上で、何かやりたいことの制限が加わっているかどうかを聞く方が実態調査としては有用なデータが取れるのではないか。【資料 5-2】Q24。「子育てについて気軽に相談できる人や場所があるか」の設問で、「ある」と回答した方に対し、次の設問で詳細な内容を聞く質問が出てくるが、どちらかというところ、「ない」と回答した方にその理由について確認する設問があった方が、今後の計画策定にあたって有用な情報が得られるのではないか。

・事務局

追加する方向で検討する。

・柳本委員

質問だが、【資料 5-1】Q38、「放課後の過ごし方」について昨年度のアンケート調査結果を見ると、こどもの回答の中で実際に放課後一番過ごしているという回答が多かったのは公園だった。Q38に公園の整備や新しい遊具の設置など、そのような項目が入っていない理由はなにか。

・事務局

昨年度調査を実施した際、公園に関する内容は多数あったため、公園のこども対策が必要という結果にはなっているが、公園以外での居場所の必要性もあるのではないかという思いから、実際こども本人がどういう居場所を求めているのかを昨年度こども本人を対象に調査を実施した。今回もその流れで、公園は公園で整備は必要だが、それ以外でこどもが自由に使えるような施設など、例えばどのようなものがあれば、こどもたちにとっていいのかを【資料 5-1】でも聞いていきたいと思っている。

・柳本委員

公園の中でも、雑草がボウボウな中でこどもが遊ぶ姿などが見られる。公園の管理は自治会の役割だが、高齢化で除草作業がすごく大変である。シルバー人材センターに依頼する地区も多いが、シルバーも依頼から数ヶ月先でないと予約が取れないということも聞いており、公園の管理の上でこどもたちが遊べる環境が整っていない状況である。そんな中で遊んでいるのが危険と思う時もあり、公園がもう少し遊びやすくなってほしいという個人の意見である。半年ほど前に公園を管理されている課に尋ねたが、檀原市には 200 以上の公園があるが、ユニバーサルデザインのインクルーシブな遊具の設置というのがまだ一つもないという現実がある。どんなこどもでも公園で遊べる環境を作っていただきたい。ここ近年インクルーシブな遊具もかなり増えており、東京都の砧公園を皮切りに、奈良市も昨年インクルーシブ遊具の設置がされている。今後検討いただきたい。

・事務局

改めて確認するという意味で調査の意義があるため、設問に追加し検討したい。インクルーシブについても今後計画を立てる上で、意見を反映した中で検討していく。

・天根会長

見方によれば、以前のアンケートに入っている内容を今回のアンケートから抜くと、「市は意図的に抜いたのではないか」と穿った見方をされることもある。趣旨としたら、この項目の③④が公園も含まれるという解釈もでき、意図的に抜いたのではないという事だが、誤解を招かないように考えていただきたい。

他に意見があれば。

・伊瀬委員

アンケートを多く実施し、その後何に使うのか。基礎資料としてとあるが、例えば小学生や中学生、高校生に「あなた方の意見を聞いた。その後こうだったと小学生や中学生、高校生に結果を返し、私たちは檀原市としてこうやって一緒にやっっていこうと思う」というメッセージがあるのかどうか。2つ目は他の市町村が同じようなことをした場合、具体的な施策としてどのような取組をされているのか、檀原市でもいいし、調査会社の方でもいいので教えていただきたい。

・事務局

まず1点目。計画策定の場合、通常、調査を行った結果、計画を策定してこういった事業につなげていくという内容について、概要書などを作成して市民に公表する形である。今回は子どもにも理解できるような簡単で優しい言葉バージョンの資料を作る予定、それをういフィードバックしていく予定である。

2点目。活用のされ方については、正直自治体によって異なるため、一概にこういう風にしていきますとは言えないが、今回は基本的に計画策定のための調査であるため、計画の中で「アンケート調査からこういう課題が見え、市として今後こういう方向性をとる必要がある」というエビデンス的なものを整理するために調査を行う。また、それ以外にも調査結果の中で得られた指標を、進捗管理や効果検証のために使用するということもあるし、場合によっては特に顕著な結果が見られるのであれば、それに基づいて次年度以降の施策を検討するための材料にする形になると思うので、基本的にはその自治体の特徴を把握するための基礎資料として使うのが自治体の中での調査の基本的な使い方と考える。

・伊瀬委員

聞いたらフィードバックしてあげるといふ大人の所作が必要である。若い世代へのアンケート結果を何らかの方法で返してコミュニケーションをとって作り上げていくというのが元々の趣旨と思う。したがって調査会社にはビジネスとしてだけではなく若い人たちのコミュニケーションの場だと思ふので、ぜひこの年齢層の分析をフィードバックし、会話が成立するようにしていただきたい。また若い人たちの実際の声を届けていただきたい。

・事務局

子どもや当事者の意見を聞き、結果をフィードバックして、意見をどう反映したのか、反対になぜ反映できなかったのかを示すようにするとなっている。現時点ではどのような形で行うかは未定だが、檀原市としてもわかるような形で示していきたい。

・天根会長

基礎資料としてだけでなく、回答者へのコミュニケーションとして活用していただきたい。それを元に色々な施策を考えることは、全国的に初めての取り組みであり、櫃原市も最初のステップとして事業を考えていかなければならない。また、数年後には見直しを行い、その時には全国的に例示がされてくるので、比較しながら積み重ねてほしい。

・中川委員

市は頑張っていると思うが、なかなかそれを見ようとしていないという実態はある。もし我々に手伝えることがあれば、ぜひ声掛けいただきたい。

・天根会長

案外、無関心という事がある。見るという意識が広がれば、みんなでまちづくりをする意識につながっていく。それが若者だけでなく、老人福祉などにもつながっていくため、建設的な取組をやっていただきたい。

・桐山委員

伊瀬委員の意見に同感。もう一つ web での調査の時にも思ったが、実態調査をしたら、もちろん市ではそれを計画に活用されるわけだが、答えた意見はその後どうなっているのだろうと思うので、やはり公表していただきたい。さらにもう一つは実態を市民の皆さんにも知っていただく必要があると思う。広報誌などの紙面を使ってでも「今櫃原市内の子どもたちの様子、生活の様子はこうなっている」と市民にも知らせることで、みんなが実態を共有できるのではないかな。

・事務局

おっしゃったように市民へこういう実態があるということをお知らせするという事は大切である。計画策定の中で計画案ができた段階でパブリックコメントで意見を聞くが、同時にどういう分析、どういう実態の中でこういう計画を立てて進めていく必要があるのかという部分を、中身がわかるような形で提示はしていく必要があると考えているので、今後検討していく。

・天根会長

開かれた政治になるよう、色んな事を提供していただきたい。新しい委員の米澤委員、こどもの貧困問題で、なにか意見はあるか。

・米澤委員

今回全体として私が大切と思っている子どもの権利条約が最近注目されてきている。「こどもの最善の利益を図る」ことや「子どものために何かしてあげる」ことは今までからよくあったが、「こどもが意見を大人に対して対等に言うことができるという環境が整備されるべき」という考えが強くなっており、浸透してきたので、アンケートの中にも入れるべき。今回の会議の進め方も実際こども・若者委員を委員として入れているので、その実現に向けての形はできていると思う。そのため、アンケートを集めて実際策定していく中で形だけ入れたと言うだけでは絶対ならないようにしないといけないと思う。こどもや若者を大人がエンパワーメントでしっかり認めて、力を対等に持ったものとして認めていくというような意識が重要である。そして、当然のこととして浸透していると思うヤングケアラーの問題を今回も具体的に注目して作っていると思うが、市に対してアクセスできるという

のも、こどもの意見表明の力の一つかなと思うため、しっかりとこどもに対しても意識付けてあげるようにし、アクセスできるんだ、アクセシビリティがあるんだ、ということをしかり意識付けることも中に入れ込んでいたらと私個人としては思っている。

・事務局

議事（3）を資料5-3、5-4、当日資料に基づき説明

・天根会長

2つのアンケートについてご意見、ご質問はいかがか。

・田中委員

市民の立場で一言。【資料5-2】では結構プライベートに踏み込んだ内容がある。親子でのプライバシーでも守りたいということで、親の学歴や雇用形態を知らないこどももいる。きちんとプライバシーが守れるのかと。それから余計なことを聞きやがってと、こども政策課に抗議などがこないかと思う。保護者と直接対応するのは学校なので、学校の先生に対して「うちはこんな家庭やからこういう調査の項目を入れたのか」とか文句を言う人がいないかどうか、そういうことを危惧している。市の担当者がアンケートの意義や目的を説明し、対応していただけるようにし、現場の先生方に対しそういう意見があったとしても、バックアップしていただけるように現場の意思統一した上で対応できるようにお願いしたい。

・事務局

親子のプライバシーについては、封筒を分けることで対応できるかと思っている。親の調査票、子どもの調査票をそれぞれ封緘し、その二つの封筒を別の返信用封筒に入れて送ってもらう形を取っているので大丈夫と考える。かなり踏み込んだ内容のため、質問に答えないといけないのかというような苦情や質問があることは想定している。貧困の調査は、市で行うのは初めてであり、実際どういう反応があるのかもわからない。ただ、この計画を策定するにあたっては是が非でも聞いていかなければならない項目なので、職員としてはその辺の認識を持った中、丁寧に説明できる体制で実施しようと思っている。任意のため、どうしても答えたくないということであれば答えなくて構わない。また、学校対応だが、前は学校を通じてコドモンで送ったり、学校のシステムを使ったりもしていたが、今回は無作為抽出で直接ご家庭に送る形になるため、基本的に問い合わせ先はこども政策課になる。ただ前回のこともあるため、学校に問い合わせもあるかも分からないため、共有しながらやっていく。

・天根会長

通常のアンケートは結果がでたら、それに対し行政としての施策をせざるをえない。だから、調べたいけども、逃げの方が多い。ただ実態として知った上で施策をしようと思うと、対応していかないと。

プライバシーの侵害にならないようにという前提で必要なものを書きたくない人は書かなくてよいというのは調査票に書いているが、いろんな見方考え方、不特定多数のため、いろんな意見が出てくると思うので、対応は考えていかないといけない。

・原田委員

【資料5-4】について。我々もアンケート調査を取り入れることが多いが「こども・若者のアンケート」と記載すると、30代後半の方が「私は若者じゃない」と言うことが非常に多い。今回檀原市第1期こども計画が39歳

まで対象である事をアンケート用紙の1行目に記載する方がいいと思う。「この調査は39歳までの方を対象としているものなので自分たちのことも含めてこの計画に載ってくるというもの」と認識してもらうことで回答率も上がるのではないかな。

・事務局

追加する。

・米澤委員

【資料5-3】、その他もですが、施設や里親の家庭にも送付するのか。

・事務局

無作為抽出になるため、市内に住民票のある方から抽出されていく。里親であったとしてもその抽出にかかってくるのであれば届く。ただ、施設に関しては、市内にそういった施設がないため、対象から外れてくる。

・米澤委員

【資料5-3】 Q18以降で母親、父親との関わり合いのみを聞いている趣旨はいかがか。家族の関わりについて説明していたが、ここは父母だけなのはなぜなのか。

・事務局

前回の調査でも基本的に回答された方の率を確認したところ、お父さんとかお母さんがほぼ大半を占めており、両親が揃ってなくてもお母さんと暮らしていたり、お父さんと暮らしていたりというケースが多いと想定されるため、直接の保護者となるお父さん、お母さんとの関わりについてくわしく聞きたいというところで、この2つはあえてお父さんとお母さんだけにしている。その他の家族については、Q22で家族全体としての関わりを聞いていく。

・米澤委員

家族全体で聞くのであれば、父と母のみ分ける必要性がないというのが1点。そこを聞くのであれば聞き方として、「よく話す家族は誰ですか」選択肢として「父、母、祖父母、その他、いない」というような選択肢、「あなたの気持ちをよくわかっている家族は誰ですか」と聞いて同じような選択肢がいいのではないかな。

・事務局

検討いたします。

・米澤委員

市の窓口に対してアクセスしやすいような環境があった方がいいのではないかな。中高校生以上18歳以上になったらそこら辺の理解ができると思われるため、若者がどういう窓口を利用することができるのかという設問があるが、利用したいと考えているかどうかと利用したいけどできない、またその理由を調査するような項目があればいいのではないかな。

・中川委員

先ほど米澤委員の仰っていた【資料5-3】Q18～22だが、Q22で「あなたの家庭の状況について～」とあるが、前の質問で父や母だけを聞いていると、「家族の状況」が「父と母」だけと考える恐れがあるため、その後に「祖父母や兄弟」という言葉を入れるだけでも違うのではないか。

・事務局

先ほどの米澤委員のご意見の件と合わせ検討する。

・野呂委員

【資料5-3】Q22の項目の中に「家族から体罰を受けたことがあるか」という設問がある。別になるが、今文部科学省から「いのちの安全教育」という性犯罪などを防止するような教育を幼稚園からやっていくように言われている。設問項目の中に「恥ずかしい思いをさせられたことがある」を追加するのはいかがか。

・事務局

追加する。

・天根会長

【資料5-3】Q3で「3定時制や通信制の高校」という項目があるが、それに「(これに準ずる学校)」といれるとか、どこに所属している人も該当するものがあるのが良いのではないか。Q10で、「あなたはどのくらい外に出ますか」という質問になると、「しょっちゅう出てる、時々出る、引きこもっている」という形になって、選択肢が選びにくくなり、「その理由は何ですか」という話に展開することになるのではないか。今の選択肢を活かそうとすれば、「あなたの外出状況について最も適するのはどれでしょうか」という質問に変えるなど質問者の意図が分かるようにしていただきたい。

・事務局

1点目だが、「これに準ずる学校」を追記する形で対応する。2点目は、会長が仰っていたように、答えにくい表記というのが一番回答につながらないため、設問の文言を変更する。

・天根会長

新しく来ていただいた委員の方、感想や意見はいかがか。

・森岡委員

【資料5-3】Q6とQ7だが、Q3の設問で「通信制の高校に在籍している」という選択肢がある。Q6とQ7「あなたは、学校に行く日は～」の表現は、「通信制の高校に在籍している」人の場合、学校に行くというより家で受けるものなので、回答に迷うのではないか。また、特に何もしていない、ひきこもりの人がQ6Q7を回答する時に、「学校も仕事もしていないのに答えるべきかな」と回答に迷うと思うため、他の質問にあるように、「①から④を選択した人だけ答えてください」とか質問自体を変更するなどすると答えやすいのではないか。

・事務局

表現を変更する。

・柳本委員

調査対象だが、市内に住む小中学校に通っているこどもは含むが、市内に住んでいて養護学校に通っている子どもたちは含まれないのか。

・事務局

無作為抽出のため、養護学校に通っている人を外すことは全くなく、対象にはなりうる。住民票がある方というのが基本にはなるので、市外の学校に通っていても抽出の対象にはなりうる。

・原田委員

我々のところに相談来られる方、親御さんからの相談がほとんどで本人の相談を乗っていくにあたり、当然我々カウンセラーのため、本人との間に守秘義務が発生する。しかし、親御さんはやはりどんな話をしたのか気になって聞いてくる。しかし、もちろん本人との守秘義務があり当然答えられない。今回【資料 5-1、5-2】だが、2つの封筒があって、それを1つの封筒にまとめて送るという形式と思うが、実際【資料 5-2】に関して、「必要に応じて保護者の方がサポートしてあげてください」と書いてある。本人が書けない場合は、おそらく親御さんが代わりに書く。「お子さんが書けない状況なので保護者が代筆しました」という項目を1つ追加すると、他のものと差別化できるのではないか。アンケートに親御さんの思いが乗った上で、実際相談に来て本人の話聞いてみたら全然違うことがよくあるため、保護者の方の意見とこどもの意見が最後確認できるように、保護者の方が代筆した場合に関してはそれがわかるような項目1つ追加するのがいいのではないか。

・事務局

追加する。

・山本委員

このアンケート調査は非常に踏み込んだ設問である。委員の皆様から様々な方面でのご意見が出て、あるいはご心配されている部分もあると思うが、私自身はこのアンケートに非常に期待している。楽しみにしている。懸念される点については、十分な配慮を事前に準備してやっていただき、結果を楽しみにしている。

・事務局

今後の流れだが、ご意見を踏まえ、天根会長のご指導をいただき、調査票を確定させたいと考えているが、それでご了承いただくということによろしいか。

(異議なし)

5. 「子育てするなら檀原市！子育てガイドブック」について

・事務局

子育てするなら檀原市！子育てガイドブックについて説明

・三浦委員

1 回目の時うちに広告を出してくださいと、サイネックス社の方が来られた。辛辣だが、1 回目の冊子は本当に

貧相な冊子だった。今回中身を見て、前回よりはだいぶ良くなっていた。2回目も広告をお願いしますとサイネックス社の営業が来られたが、その時に「1回目の冊子があまりにもひどかったため、これでは広告を出せない」という話をした。サイネックス社の営業の方に、「もう少しちゃんとした冊子になるようにして、その叩き台みたいなものを持ってもう一度来てください」という話をしたが、二度と来なかった。「広告を出したところは地図上に載せますよ、広告を出していないところは載せませんですよ」という話をされたが、市が出している子育てブックに、広告を出しているから載せる、広告を出してなくても、地図上にクリニックの名前を載せるような地図もあり、そういったものを載せるのが、税金を使ってやっている以上当たり前だと僕は思う。お母さんが、どこか受診しようと思っても小児科が一切載っていない、歯科も載っていない、保護者がどこか受診したいと思っても内科も載っていない。広告を出しているところしか載ってないため、内科も殆ど広告を出していないから載っていない。こんな冊子を作って、本当に子育てガイドブックなのか。1回目も今回も非常に怒りに近いものを感じた。税金を使ってやることについてどのように考えているのか不思議である。広告を出しているところは載せて、出していないところは載せないということは、市が作るものとしてはひどいのではないか。

・事務局

この冊子を作成するにあたり、サイネックスと協定を結び広告料で作成するという形にはなっているが、当然、榎原市が協働で作成しているのだから、市として載せていくべき部分については載せていく必要があると思っている。ただ、その辺が周知できていなかった部分があるのかと。地点に関しては、広告を出していないから地図に載せないというのではなく、希望していただいたら出していくことにはなっているのだから、誤解を招いている部分があると思う。

・三浦委員

僕は広告はいらないから榎原市内の小児科クリニックだけ全部載せてくれと言ったが、その営業の人は「そんなことできません」と言っていた。

・事務局

業者の方と確認し、そういう齟齬がないようにする。

・柳本委員

2023年度版も見たが、放課後等デイサービスや児童発達支援事業者のふぁ〜すと、すてっぷの背表紙の部分だが、この「何かへん はやく気づいて」という文言。支援の必要な子たちにとって「何かへん」と思われているというのは、「はやく気づいて」とこんなに大きく書かれるのはちょっと違うのではないかと思うが、その辺はどうお考えか。

・事務局

広告は無条件に何でも載せるということではないので、文言としてどうかというのはチェックする必要があるかと思うが、その部分については気づいていないとか、その意図も踏まえて聞かせていただいた中で対応していきたい。

・柳本委員

子どもたち、本人が見た時にどう思うかを考えてもらいたい。

・事務局

基本的にこのガイドブックは、これを見ていただいて、橿原市がいかにか子育ての情報を網羅しているかというところを載せていきたいという趣旨で作成している。今いただいた意見のように、実際にこちらの趣旨と違う部分が結果として出てきたというところはしっかり受け止める。医療機関についても、いろんな協議をした中で、広告を載せたところだけを載せるという意図ではないが、結果としてそうなってしまう。子育て情報紙なので、中身として小児科を標榜している医療機関を基本にご紹介すべきではないかという話もでた。ただ、親御さんも受診はするので、こどもに限らない他の診療科も全て載せるべきではないかというような議論もした中で、あまりにも地図が見にくくなるのではないかなど、いろんなことがあり、その辺の審議が十分深められておらず、このような形になったと思っているので、今年度は申し訳ないが、印刷物が出来上がってしまっているので、次年度の作成に向け、より中身の充実したものにしていきたいと思っている。今いただきました裏表紙の広告については、確かに広告の紙面をどれくらいの大きさでどうしていくかという話を作成業者さんが進めていると思う。ただ、だから何を載せてもいいかというところではないので、それについては実際におっしゃっていただく内容も十分に意図的にはわかるので、次に関しては先ほどからもあるように、どのような表現でどのように伝わっていくかというところが非常にデリケートな話かと思うので、合わせて次年度になるが、検討させていただきたい。よろしく願います。

6. 次回の会議の日程について

次回は、本年10月3日（木）午後4時から開催予定。場所は、近鉄八木駅前庁舎向かい 大和信用金庫の八木支店のあるビルの3階会議室である。

以上で令和6年度第1回こども・子育て会議を終了する。長時間の審議に感謝する。